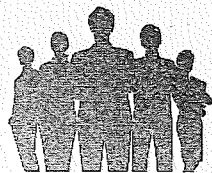


共に歩む

第10回



デアはあるものの具体的 チック同士が重なって密 研究開発に携わる企業と
な開発には設備も費用も 着しているため、接着剤 センター職員の熱意が、
かかる。そこでセンターも不要となりコストダウン 新しい製品を生み出すこ
に相談し、製品化に向け ンも図ることができた。とができた要因であると
た共同研究を開始した。 大手照明メーカーのカタ 強く感じている。
「プラスチック製ラン ログにも掲載され、順調 【執筆】企画管理係
センターと11年4月か 販売数も伸ばしてい

黒岩広樹

【群馬県立産業技術セ

今回の事例は、企業が 困っていたアイデアの具 県内中小企業の支援機

を総的に活用し、製 研究機関。技術支援、研 品化へ結び付いたもので 究開発、人材育成などを

ある。そして何よりも、 行う。

「群馬県立産業技術セ

今回は、ランプシェイク製照明器具の製開発 的危険性の少ないプラス プシエイドの開発」
下(照明器具用傘)を主 が求められていた。 チック製へ転換する動き センターと11年4月か
力製品とする桐生市の彦 こうした中、彦部科学 が進んできている。 ら1年間、公募型共同研 究を実施した。溶かした
部科学(彦部恭一社長) のオリジナル商品「イト このような背景の中、 プラスチックを型に巻き
と群馬産業技術センター マキシエイド」は10年度 彦部社長は新たな自社の プラスチックの補助金 関として、03年に前橋と
で共同開発を行った「ブグッドデザインぐんま大 柱となる製品を開発する 付ける新しい工法で、材 や設備、職員の知見など 太田に開所した公設試験
ラスチック製ランプシェ 賞(商品部門)を受賞し、 べく、日々製品アイデア 料選定、型の工夫、製造

「開発の背景」

プラスチック製ランプシェイドの開発

彦部科学

省エネルギー化への関 心の高まりから、消費電 国内のみならず海外でも を検討していた。自社の 装置の検討を行い、高付
力が低く耐久性に優れる 高い評価を得ている。 ランプシェイドは、より 加価値(軽量、高透明度、
LED照明器具の需要が 「新たな製品開発への 糸(細い糸を束ねたもの) デザイン性)を付与した
急速に高まり、消費電力 挑戦」 を型を巻き付けて製造し 市場競争力のあるランプ
の高い白熱灯市場はもと 近年、東日本大震災を ている。 シエイドの開発に成功し

より、比較的消費電力の はじめ、世界各地におけ この「イトマキシエイド」

低い蛍光灯市場までもが る災害時において、ガラド」は、糸が重なり合う プラスチック素材その

LEDへの転換を盛んに ス製照明器具の落下等)のため、光が透過しづら。 ままでは質感が低く安価

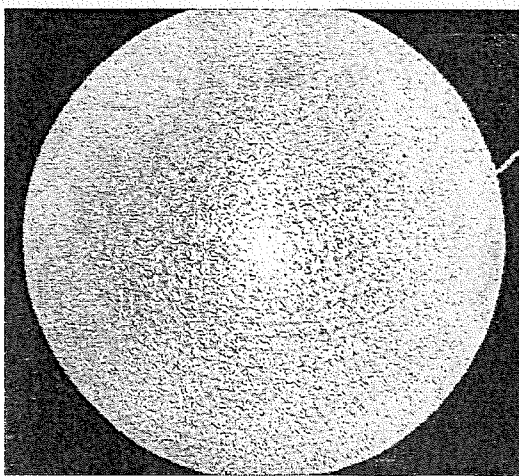
行っている。しかし、L より被害を拡大させてしそのため透明度を上げた なイメージになってしま

ED照明は白熱灯・蛍光 まった例も多く報告されいという客先ニーズがあうが、透明で強度の高い

灯に比べて無機質である ており、安全性を考慮し、プラスチックに置き 材料を用いたことで高い

ため、デザイン性・機能 て、公共施設や家庭での 換えられないかと考え デザイン性を有すること

性を重視したプラスチック ガラス製照明器具を比較た。しかしながら、アイ ができた。また、プラス



プラスチック成形機を用いたランプシェイド製品